

## MS&ADホールディングス 電話会議（2017年5月19日開催） 2016年度第4四半期決算説明会 質疑応答要旨

2017年5月19日に実施したIR電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。

なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSA生命：三井住友海上あいおい生命株式会社

MSP生命：三井住友海上プライマリー生命株式会社

Q1：資料16にある2016年度MSのEI（アーンド・インカード）損害率について、自動車保険が第4四半期に良くなり、「その他」の保険が悪化していると思われませんが、それぞれの要因について教えてください。

A1：自動車保険のEI損害率改善の要因は、対人賠償の備金の見直しが一巡したことや高額事故の減少などが要因です。また第4四半期にその傾向がIBNRにも表れました。「その他」については、新種のインカードロス（発生損害）の額自体が増収に伴って増加していることと、特定の大口契約によるインカードロスの発生もあって、EI損害率が上昇しています。

Q2：資料27にある2017年度第の連結純利益の前期比増益の要因として国内損保事業のアーンドプレミアム（既経過保険料）の増加（+266億円）が挙げられていますが、2016年度減収だったにも拘わらず、2017年度にアーンドプレミアムが増加する要因について教えてください。

A2：2016年度の減収は、前の年度に火災保険の長期契約で大幅に増収したことの反動によるものです。減収が大きく見えていますが、ベースとなる部分の保険料は増加していますので2017年度のアーンドプレミアムは増加しています。

Q3：資料10では、自動車保険の事故件数が、2016年度下半期では増加傾向に見えますが、今後の自動車の事故件数見通しについて教えてください。

A3：事故受付件数はMS、AD共に少し増えている傾向にあります。2017年度については、2016年度が雪による事故が比較的少なかったこともあり、2016年度対比では若干増える傾向になると見込んでいます。

Q4：貴社の2017年度の計画に自動車保険料引き下げ影響が織り込まれているのかについて教えてください。

A4：今回の業績予想には入っておりません。

Q 5 : M S A 生命、M S P 生命と海外保険子会社の経常利益の予想数値を教えてください。

A 5 : 2017 年度の経常利益予想は以下の通りです。

M S A 生命 127 億円 (2016 年度対比△34 億円)

M S P 生命 220 億円 (同△357 億円)

海外保険子会社 528 億円 (同+128 億円)

Q 6 : 資料 2 6 では海外保険子会社の 2017 年度の当期純利益が前期比+209 億円、これに加え、マックス生命の合併に係る株式の交換利益 210 億円がコア利益に算入されるのに対して、資料 2 8 の 2017 年度の海外事業のグループコア利益が、+293 億円にとどまっている要因について教えてください。

A 6 : グループコア利益と財務会計上の利益の差異には調整項目としての特別損益があります。2016 年度実績では、MS Amlin に係る統合費用 (約 50 億円) を特別損失に計上 (グループコア利益には足し戻し) し、それ以外にも海外で特別損失を計上しております。これらが主な要因です。

Q 7 : 海外保険子会社の自然災害について、2016 年度実績額および 2017 年度の想定額を教えてください。そのうち MS Amlin がいくらかについても教えてください。

A 7 : 海外保険子会社全体では、自然災害について集計しておりません。

MS Amlin については、自然災害を含む大口ロスを管理しており、2016 年度実績は 236 億円、2017 年度の業績予想では 225 億円を織り込んでいます。

Q 8 : 2017 年に入り、豪州のサイクロンなども発生していますが、決算に大きな影響を与えるような自然災害はあるのか教えてください。

A 8 : 現時点で特定の自然災害は認識しておりません。

Q 9 : 資料 2 6 では MS Amlin の当期純利益について、2016 年度実績が見込んでいた 212 億円から 123 億円に減少し、2017 年度予想では 301 億円と大幅増を見込んでいますが、それぞれの要因について教えてください。

A 9 : まず、ご指摘いただいた資料 2 6 の 2016 年度当期純利益 123 億円は、2017 年度との比較のために置いた MS のロイズ事業および再保険事業統合後のベースの金額です。

MS Amlin の 2016 年度実績は、資料 1 3 に記載のとおり 40 億円です。

2016 年度 212 億円の計画を下回った要因は、ハリケーン・マシューやニュージーランド地震など大口ロス、英国の Ogden レート (人身傷害保険金に係わる法定利率) 引き下げ影響などがあります。このほか、2016 年度の特異要因として統合費用がありました。

2017 年度については、2016 年度の一時的なマイナス要因がなくなり、自然災害については平年並み、一般ロスも改善すると見込んでおり、また資産運用の収益も若干回復して統合後ベースの 123 億円から 177 億円増益の 301 億円を見込んでおります。

Q10： MS Amlin の 2017 年度業績予想には、統合されたMSのロイズ事業、再保険事業の数値が含まれているとのことですが、統合する前の MS Amlin だけでは、いくらを見込んでいるのかについて教えてください。

A10： 2016 年 12 月に統合が完了しており新ベースで 2017 年度計画を策定しているため、旧ベースでの内訳はありません。

Q11： インドのマックス生命の株式の交換利益について、資料28では約210億円、資料30では約220億円となっていますが、差異の要因について教えてください。

A11： 資料28はグループコア利益であり、連結の税引後の金額です。資料30はMS単体の利益であり、税引前の金額となっています。  
マックス生命は、現在持分法適用会社ですが、合併すれば持分法適用会社ではなくなる前提で見込んでおります。

Q（更問）：持分法適用会社から外れると今後IPOなどが行われても持分変動損益は認識しないと理解していいのか教えてください。

A：ご理解の通りです。

Q12： インドのマックス生命の株式の交換利益はキャピタル損益であるにも拘わらず、今回グループコア利益とした理由について教えてください。

A12： 政策株式のキャピタル損益はグループコア利益から除外しますが、本件については事業投資の成果として捉えており、グループコア利益に含めております。

Q13： 今回増配を実施して自社株買いは行われませんでした。今後の自社株買いについての方針や考え方について教えてください。

A13： 2016 年 10 月末に約 300 億円の自社株買いを決定致しました。従来からご説明の通り、株主還元につきましては中長期的に 50%を還元し、自社株買いについては機動的に行うこととしております。今回自社株買いではなく、増配とした意図については、5 月 25 日のインフォメーションミーティングで経営からご説明させていただきます。

#### 【MSP 生命の価格変動準備金の追加積立についての補足説明】

資料23でご説明している159億円については、金利、為替の影響に基づいて算出される価格変動準備金の対象損益を繰り入れております。

このほか当期は、基準繰入25億円に加えて、追加繰入として104億円を実施しております。

MSP 生命では将来の市場変動による損失への備えをより強固にすることを目的として法定の積立限度に向けて一定間で積み立てていくという方針を定め、これに基づいて積立を行っております。

以上